

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (25) : 21-24, 1998.

シーボルトミミズの分布について

北 恵利子 ・ 川口 敏

〒760-8522 高松市幸町1番1号 香川大学教育学部生物学教室

Note on Distribution of *Metaphire sieboldi*Eriko Kita & Satoshi Kawaguchi, Biological Laboratory, Faculty of Education,
Kagawa University, Takamatsu 760-8522, Japan

シーボルトミミズ (*Metaphire sieboldi*) は、Horst (1883) よって、日本産ミミズ類の一種 (*Pheretima sieboldi*) として報告されたのが始まりである。その後、小林(1941a)が、フトミミズ属 (*Pheretima*) の分布区域を示したことによって、シーボルトミミズは日本の固有種とされた。分類学上では、フトミミズ科 (Megascolecidae) に属す。俗称としては、「山ミミズ」(畑井, 1929), 「カンタロウミミズ」, 「カブラタ」(南紀生物同好会, 1979) と呼ばれる。特徴は、体長247~280mm, 体幅14~15mm (成体) の大型で、からだは青黒く、光沢がある。成体には、環帯があり、第14~16体節に生ずる。雌性孔は環帯上の第14体節に、雄性孔は第18体節の両側にある。盲囊は第26体節で6個の指状突起を有する。受精囊開孔は第6/7, 7/8, 8/9体節にある(大淵, 1965)。

日本における陸棲貧毛類の分布に関する研究は、1883年 Horst 以後、五島、畑井、Beddard および Michaelsen によって、断片的ではあるが報告されてきた(小林, 1941c)。1930年以降、Ohuye (1937) の報告があり、小林(1941a, 1941b, 1941c) によって、九州・四国・中国・近畿・中部地方におけるミミズ類の分布概況が明らかにされた。その後、シーボルトミミズについての報告は著者らの知る限り、中平 (1948), 山口 (1966) がある。しかし、これらの採集地には、香川県はない。そこで、今回、著者らと豊島弘氏の香川県における採集記録も含め、水平分布

としての知見をまとめて報告する。

図1Bには、畑井(1929), Ohuye (1937), 小林 (1941a, 1941b, 1941c), 中平 (1948), 山口(1966), 今島 (1997年11月20日私信) および著者らの広島県比和町の採集地点を、図1Cには、著者らと豊島 (1997年12月30日私信) による香川県の新たな採集地点を人文社 (1997) を用いて示した。採集地点が旧村・町名で記載されている地点は、金井(1993)を用いて、新市・町名に改めた。また、剣山などのように、山や岳を記載している場合は、山頂の地点とした。著者らの採集については、1997年8月12日~1997年11月15日に林床内の落葉層や道路の側溝内の堆積物中で採集した。採集した標本は、70%アルコールで固定し、持ち帰った。学名は、Easton (1981) に従った。また、図中の数字は結果の採集地点に一致する。

シーボルトミミズの分布域に関して、小林 (1941a) は、西の分布境界が、九州の篠栗郊外若杉山・英彦山・祖母山・米良荘・霧島・鹿児島城山・開聞岳(2,3,4,5,7,9,10) を結ぶ線となり、屋久島には棲息しないということを述べている。東の境界については述べなかった。また、小林(1941c)では、分布境界が示された(図1A)。

ところが、山口(1966)は、小林(1941a, 1941b, 1941c) が示した分布境界(図1A)より東側の志賀高原からシーボルトミミズを採集したことを報告している。この報告について、今島(1997年11月20日私信) から、シーボルトミミズとは異

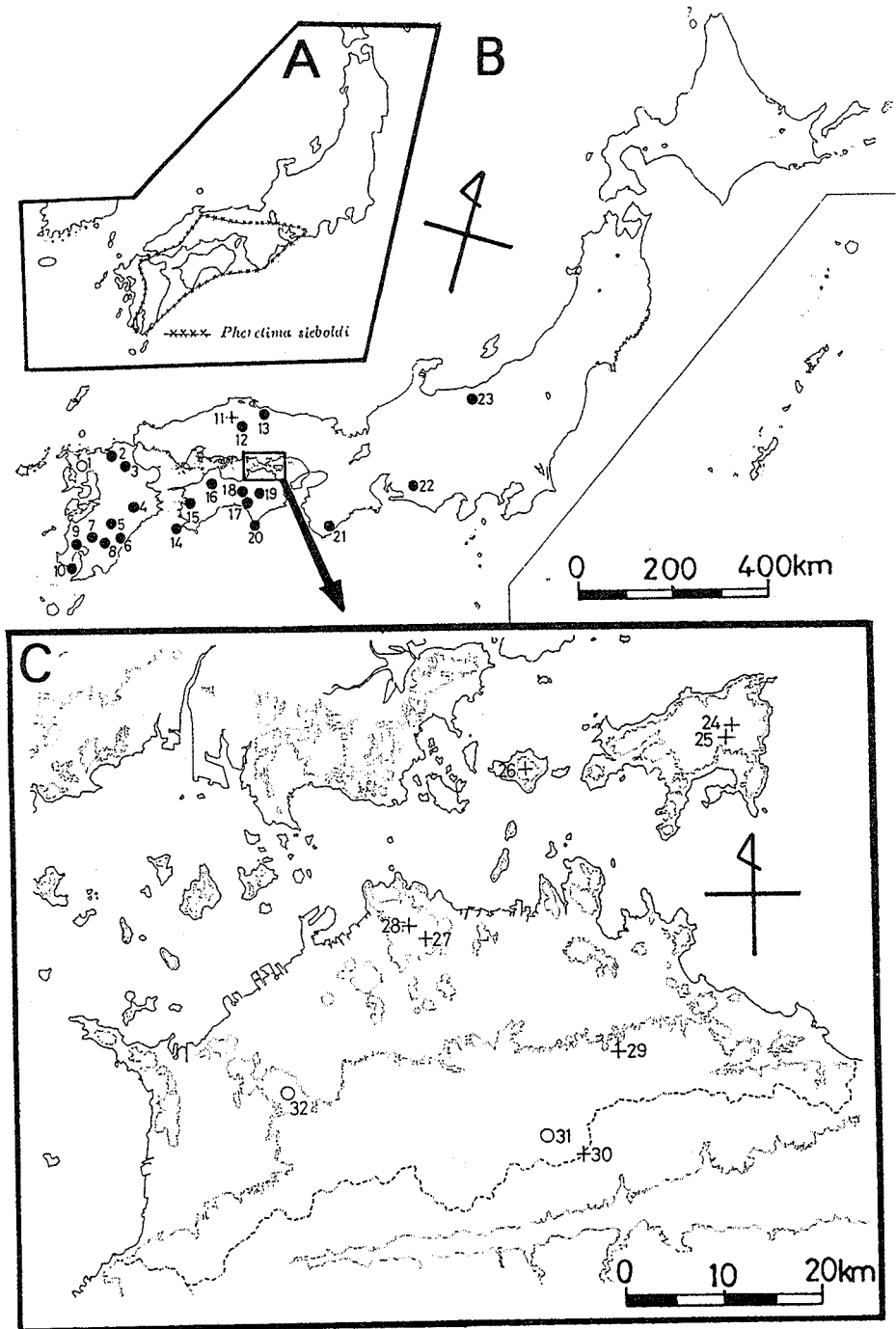


図1 A. シーボルトミミズの分布境界 (小林, 1941c より).
 B. シーボルトミミズの全国分布 (除く香川県).
 C. シーボルトミミズの香川県の採集地点.

●: 畑井(1929), Ohuye(1937), 小林 (1941a, 1941b, 1941c), 中平 (1948)および山口 (1966)の採集地点
 +: 著者らの採集地点
 ○: 今島 (1997年11月20日私信)および豊島 (1997年12月30日私信)の採集地点

表 1. シーボルトミミズの採集地点(図1 B, C)の地点名と採集者等。

- 1, 佐賀県黒髪山山頂付近(今島, 1997年11月20日私信); 2, 福岡県若杉山(小林, 1941a); 3, 福岡県英彦山(小林, 1941a); 4, 大分県祖母山(小林, 1941a); 5, 宮崎県米良(小林, 1941a); 6, 宮崎県妻(小林, 1941a); 7, 鹿児島県霧島(畑井, 1929); 8, 宮崎県青井岳(小林, 1941a); 9, 鹿児島県鹿児島市城山(小林, 1941a); 10, 鹿児島県開聞岳(小林, 1941a); 11, 広島県比和町(川口, 1997年11月8日採集); 12, 広島県帝釈峡(小林, 1941b); 13, 鳥取県大山(小林, 1941b); 14, 高知県土佐沖ノ島(畑井, 1929); 15, 愛媛県宇和島(大植, 1937); 16, 愛媛県面河溪(小林, 1941b); 17, 高知県龍河洞(小林, 1941b); 18, 高知県香美郡東川(中平, 1948); 19, 徳島県剣山(小林, 1941b); 20, 高知県室戸岬(畑井, 1929); 21, 和歌山県郡智山(小林, 1941b); 22, 愛知県鳳来寺(小林, 1941b); 23, 長野県志賀高原(山口, 1966); 24, 小豆島星ヶ城山の東峯豆枳神社(北・川口, 1997年8月13日採集); 25, 小豆島石門洞(北・川口, 1997年8月13日採集); 26, 豊島豊峰権現堂(北・川口, 1997年8月24日採集); 27, 五色台一本松(北・川口, 1997年10月18日採集); 28, 五色台白峰寺(北・川口, 1997年10月18日採集); 29, 長尾町前山ダム(北・川口・野口, 1997年11月15日採集); 30, 大瀧山山頂付近(北・川口, 1997年8月12日採集); 31, 塩江町上西内場(豊島, 1996年6月23日); 32, 琴平町旭社付近(豊島, 1987年8月)

なった種であるらしいとの情報を得た。また、1の佐賀県黒髪山(今島, 1997年11月20日私信)と11の広島県比和町(川口, 1997年11月9日採集)の採集地点は、図1Aの分布境界からはずれた場所なので、シーボルトミミズの分布域は九州・四国・中国・近畿・中部地方にかぎることができるが、小林(1941c)の述べる分布境界は、まだ広がる可能性があると言える。

また、属島における分布は、畑井(1929)による高知県土佐沖ノ島だけであったが、今回、小豆島・豊島より採集できたので、他の島嶼部にも広く分布するものと思われる。

今回、報告をまとめるにあたり、貴重な情報を寄せていただいた元国立科学博物館の今島実博士と元高松第一高等学校の豊島弘先生、また、貴重な文献をいただいた中央大学経済学部生命科学担当の中村方子教授、そして、採集を手伝って下さった香川大学教育学部自然科学学科の野口和恵氏に御礼を申し上げる。最後に、終始ご指導いただいた香川大学教育学部生物学教室の金子之史教授に感謝の意を表す。

引用文献

- Easton, E. G. 1981. Japanese earthworms: a synopsis of the Megadrile species (Oligochaeta). Bull. Br. Mus. nat. Hist. (Zool.) 40(2): 33-65.
- 畑井新喜司. 1929. シーボルトミミズ (*Pheretima Sieboldi*, Horst) と普通ミミズ (*Pheretima communissima*, Goto et Hatai). 動物学雑誌 43: 260-266.
- Horst, R. 1883. Notes XVII. New species of the genus *Megascolex* Templeton (*Perichaeta* Schmarda) in the collections of the Leyden Museym. Notes Leyden Mus 5: 182-196.
- 人文社(編). 1997. 日本分県地図地名総覧. 人文社, 東京.
- 金井弘夫(編). 1993. 新日本地名索引. アボック社出版局, 東京.
- 小林新二郎. 1941a. 九州地方陸棲貧毛類相の概況. 植物及動物 9: 511-518.
- . 1941b. 四国, 中国, 近畿及中部諸地方の陸棲貧毛類に就て. 動物学雑誌 53: 258-266.

———. 1941c. 西日本に於ける陸棲貧毛類の分布概況. 動物学雑誌 53: 371-384.

中平清. 1948. シーボルトミミズの出土の要因は何か. 採集と飼育 10: 65.

南紀生物同好会(編). 1979. わかやまの生物. 帯伊書店, 和歌山.

大淵真龍. 1965. 新日本動物図鑑上. 内田亨(編), しーぼるとみみず: 555. 北隆館, 東京.

Ohuye T. 1937. On the coelomic corpuscles in

the body fluid of some invertebrates IX. On the coelomic corpuscles of an earth worm, *Pheretima sieboldi*, Horst. Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., IV (Biol.) 12: 255-263.

山口英二. 1966. ミミズ類. 土壤動物研究グループ報告 (JIBP-PT Section): 23-26. “青木淳一 (1973. 土壤動物学. 北隆館, 東京.) から引用”